



令和2年度SIP第2期 課題評価結果

「フィジカル空間デジタルデータ処理基盤」 を抜粋

令和3年2月25日

ガバニングボード決定

Ⅱ. 課題（プログラム）毎の評価結果

令和2年度 SIP 第2期課題評価結果

課題名	フィジカル空間デジタルデータ処理基盤
PD名（※敬称略）	佐相 秀幸

I. 総合評価結果

テーマ間の連携が明確になるとともに、中心テーマである My-IoT プラットフォームの実用化に向けた体制構築も進んでいる。

コンソーシアムの設立に留まらず持続的な運用に向けたビジネスモデルの具体的な検討や更なるユーザーの拡大に注力していく必要がある。また、引き続きグローバルベンチマークに取り組み、ベンチマーキング結果を踏まえた不足点・欠点の洗い出しを行うことや、個々の技術だけでなく全体システムとしての優位性を明確にする必要がある。

総合評価

A

Ⅱ. 主な指摘事項

【肯定的評価】

- 開発当初はテーマ間の連携が必ずしも明瞭ではなかったが、My-IoT プラットフォームが開発の中核であることが明確に示されるようになり、各テーマ間の連携が密になった。
- 出口に向けた企業の巻き込み等の動きは評価できる。中小・中堅事業者への展開などで成果を期待したい。

【改善すべき点】

- My-IoT プラットフォームのコンソーシアム設立が終わりではなく、その将来に向けての持続性が重要であるため、コンソーシアムの運営体制、ビジネスモデルなど、プログラム終了後も継続できる仕組みを検討する必要がある。PoC 止まりや単なるユースケースの紹介など一過性の仕掛けにとどまらないように、事業として成立するような具体的な数字（運営コスト・収益などの金額）を明確にする必要がある。

- 社会実装のスケールが現時点では九州だけにとどまっておらず小さいため、九州以外の地域への展開にも力を入れること、市場で使われることによってユーザーの要求をより集めながら、改善を重ね、アジャイル的に拡大させていくことが重要である。
- IoTプラットフォームとしてセキュリティ面の検討が不足している。接続・利用には簡便性が重要であるが、市場におけるサイバーセキュリティの要件はシビアになってきているため、「サイバーフィジカルシステム対策フレームワーク」（平成31年4月18日経済産業省策定）を参考にしつつ十分に検討する必要がある。
- MSM-PFについて、社会実装を念頭に置いたうえで、改めてSIP第2期期間内での研究開発目標及び他の要素技術開発との連携を含む具体的な研究内容を整理する必要がある。また、My-IoTプラットフォームとの連携など、具体的な社会実装の進め方についても検討を深める必要がある。
- 「移動空間デジタルデータのエッジ処理とクラウド連携による安心・安全・安価な複数台自動走パーソナルモビリティの社会実装」については、My-IoTプラットフォームとの連携に向けて、さらに事業内容の見直しを図る必要がある。
- ピアレビューの指摘を踏まえつつ、来年度もグローバルベンチマーク調査を実施することが必要である。その際、My-IoTプラットフォームの現時点及びSIP終了時点での技術レベル（先進性）に加え、ユーザー側の視点のコスト優位性を明確にすべく、第三者の視点で客観的なベンチマークを行う必要がある。また、個別の技術だけでなく、My-IoTプラットフォームとマルチセンサモジュールを組み合わせた全体システムとしての優位性も明確に示す必要がある。

【ピアレビューについて】

ピアレビューは概ね適切に実施されている。プラットフォームとしての評価と各要素技術としての評価が混在しているため、全体システムとしてのレビューと要素技術のレビューを区別して行うことが望まれる。

(以 上)